



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
1/22 (月)	+ 1,000	▲ 200	+ 800	国庫短期証券発行償還 (3M・1Y)	国債買入 + 13,700 CP等買入 ▲ 200 国債補充供給 + 32,600		日：日銀金融政策決定会合 (1日目)
1/23 (火)	+ 1,000	▲ 3,000	▲ 2,000		共通担保 ▲ 8,400 社債等買入 + 1,000		日：日銀金融政策決定会合 (2日目)
1/24 (水)	+ 1,000	▲ 6,000	▲ 5,000				日：貿易収支 (12月) 米：PMI (1月) 欧：PMI (1月)
1/25 (木)	ト	+ 16,000	+ 16,000	各種財政資金の支払い			米：GDP (4Q)
1/26 (金)	+ 1,000	▲ 8,000	▲ 7,000	国債発行 (40年)			日：日銀金融政策決定会合議事要旨 (12月18・19日分)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1兆1,500億円減少の537兆6,500億円から始まった。翌日16日には、国債買入やCP等買入などにより、539兆7,700億円まで増加した。しかしその後、国債発行等の要因により、19日には540兆9,400億円(速報)まで減少し越週となった。

無担保コールON物加重平均金利は週初▲0.009%から始まった。新積み期に入り調達サイドが様子見姿勢を示したことから同金利は16日に▲0.017%まで低下したものの、3日積みである週末19日には▲0.011% (速報)まで上昇した。

ターム物は1W~2W物を中心に▲0.025%~▲0.005%のレンジで出が見られた。

来週の予定は、国内では、22日・23日に日銀金融政策決定会合、海外では25日にGDP (4Q) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.060 ~ 0.010
2M	▲0.040 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レポ>

足許GCIは週初▲0.11%~▲0.095%の出合いから始まり、週央まで同水準で推移した。

18日は▲0.09%の出合いが中心となり、3m短国の入札が行われた19日には▲0.085%で多く取引された。

SC取引は2年445~456回債、5年149~163回債、10年350~373回債、20年180~186回債、30年65~81回債、40年13~16回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.050

<CP>

今週の入札発行総額は約9,300億円で、週間償還額約6,600億円を上回った。発行市場は鉄鋼や石油、食料品等の業態で大型の発行が見られ活況となった。発行残高は先週末時点の27兆1,660億円から1月18日時点で27兆6,335億円に増加した。発行レートは、0%近辺から小幅なプラス圏での出合いが中心であった。

来週の償還額は、約9,700億円となっている。発行市場は、償還額と同程度の発行が見込まれる。発行レートは、金融政策変更の警戒感等から、発行期間の長い銘柄等については上昇余地を探る展開が見込まれる。26日に、CP等買入れオペが4,000億円でオファーされる予定となっている。

<TDB>

18日の1Y (1207回債) の入札は、最高落札利回り0.0000% (前回債▲0.1282)、平均落札利回り▲0.0039% (前回債▲0.1402%) となった。

19日の3M (1208回債) の入札は、最高落札利回り▲0.1723% (前回債▲0.1944)、平均落札利回り▲0.1872% (前回債▲0.2080%) となった。

来週の入札は、26日に3Mが予定されている。